

## 平成29年度大阪府河川整備審議会「第1回高潮専門部会」 議事要旨

日時：平成30年3月20日（火）10:00～11:30  
場所：大阪府西大阪治水事務所  
出席者：委員）中北部会長・大石委員・平石委員  
オブザーバー）内藤委員・早川委員・竹下委員・畝田委員

### まとめ

- (1)大阪府河川整備審議会高潮専門部会設置趣旨及び高潮専門部会の進め方について
- (2)高潮浸水シミュレーションの条件設定について
  - ・台風の外力について手引きをベースにし、一部d4PDFを使いながら進めるには、手引きでの出力、d4PDFでの出力を相互に見て包絡するような感じで進めていくことが大事。
  - ・波浪に関しては、高潮偏差が高くなるため最初は考えないということであったが、波浪に関しても手引きに記載されているので、有意かどうかまずは判断をすることが大事。
  - ・コースによっては浸水のひどいところが異なるという結果からしても、きょう以降、次までの検討だけで完全に外力の設定の仕方を決定するのではなく、最終的な目的である浸水氾濫域、避難時間も含めて、そこも見ながらの判断も考える。

概要：〔以下、○委員 ●事務局〕

（事務局説明）

- 高潮専門部会の設置趣旨ですが、平成27年に水防法が改正され、想定し得る最大規模の高潮に係る浸水想定区域図を作成し、水位周知海岸の指定、高潮特別警戒水位の設定が規定された。  
今回、この高潮専門部会を平成29年12月に河川整備審議会のもとに設置させていただき、浸水想定区域の作成に伴うシミュレーション条件や、台風コースの設定などについて、この専門部会で、技術的助言を求めたい。
- 高潮専門部会の進め方については、今回、高潮偏差を求めるシミュレーションの条件設定を行うための基本的な考え方を整理し、さらに新たな知見に基づく最大クラスの高潮条件の設定を検討し条件に反映していきたいと考えている。2回目、3回目以降は、検討した条件を基に作業をおこないシミュレーション等を提示しながら確認していくというような形で進め、最終的には来年度末に専門部会の答申をいただきたいと考えている。
- 高潮偏差シミュレーションの条件設定については、まず手引きで外力条件の設定方法が定められ、最大クラスの高潮を発生させる外力条件は、台風の中心気圧、台風半径、台風の移動速度、台風コースを設定することとなっている。手引きに基づく台風コースの設定は、進入角度、移動経路を機械的に定めて移動させながら求めていくもので、地形特性といった影響は特に考慮されていない。
- 大阪湾に襲来するコースは、九州、四国、紀伊半島の山地の影響を受けるものと考えており、今回、現実的に起こり得るコースを設定する目的で、アンサンブル気候予測データベース（d4PDF）を用いて検討を進めることとする。
- 現在、d4PDFで分析する対象の範囲を定めデータを整理した結果、この範囲を通過する中心気圧が930ヘクトパスカル以下の台風トラック12個が抽出され、この台風トラックをもとに地上付近での風速も考慮しながら、手引きで設定したコースとともにコースとシミュレーションによる偏差を見比べ、検討を進めたいと考えている。

- 手引きでは、波浪の細かな繰り返し計算など非常に労力がかかるところまでは求めていない考えとなっている。ただ一方で、ウエーブセットアップや、堤防がほとんどないところで越波による浸水を考えると、やはり波浪の計算が要るということで、波浪の計算が計算上インブロックされている。大阪府から波浪を省略するというのは、こういう理由で省略しますと整理すれば今後ほかの県にも参考となる。
- 台風コースを検討していく上では、先ほどの手引き上の知見とそれ以外の知見も見ていただきたいと思うが、ほかの検討の条件を見ると、どうしても最後、避難場所がそれによって変わり得るので、コースを決めるのはそこでやはり悩まれる、いわゆるコースをここは考えなくていいとなった途端にその部分は避難の範囲から外れることになるので、そこは総合的に避難の視点で検討せざるを得なくなるのかなと思う。1つは地形上の影響で考えていただくという話と、シミュレーションの結果を踏まえて避難の観点からも必要かどうか審議いただければありがたい。